

総合的な学習の時間

第5学年「食の未来探検隊」

I 本時までの経緯



子どもたちは食品のもとになっている材料や栄養素について調べ、食について関心をもって調べ学習を展開してきた。次に稲の栽培方法について、空間線量や土、水の安全の面から調べ、心をこめて世話をし、育ててきた。

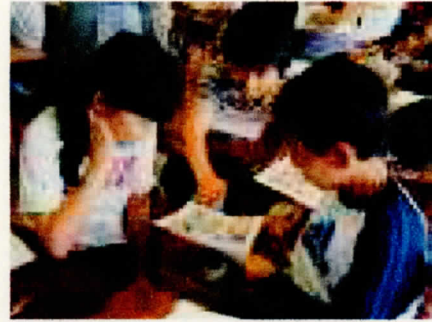
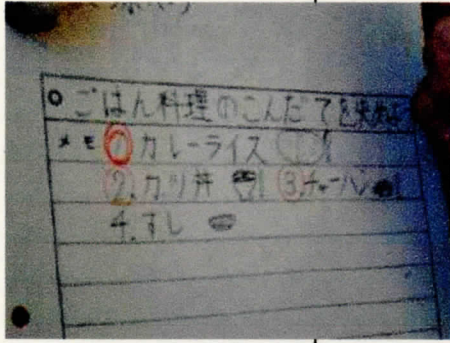
「食品の安全な調理に挑戦する」の学習においては、先ず食品の安全性についていくつかの視点を通して調べてきた。食中毒や賞味期限切れ、食品添加物、農薬、輸入食品、放射能の線量などについて、インターネットや本を活用して調べることを通して、食品の安全性がとても大事であることを理解している。

II 本時のねらい

稲の収穫の喜びを味わうため、自分だけのご飯料理の献立を考えて決めることができる。

III 本時（42／69時間）

学習活動・内容	手立てに関する実際
<p>1 バケツ稲の収穫後、どんなごはん料理でお祝いするか話し合う。</p> <div data-bbox="269 1173 586 1263" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> ごはん料理の献立を決めよう。 </div> 	<div data-bbox="618 1010 1422 1043" style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;"> 自己決定場面のある授業展開の工夫 </div>  <p>導入において、バケツ稲の観察を行い、玄米を実際に精米して白米にしてみた。白いお米を見たことで「食べてみたい」「ごはんの料理を作りたい」という意欲が高まった。そして、自分は何を作ってみようかと考えるきっかけとなっていた。</p> <div data-bbox="618 1827 1422 1861" style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 10px;"> 多様な価値観が交わされる授業展開の工夫 </div>
<p>2 ごはん料理の献立を考える。</p>	



はじめに個人で「自分なりのこんだての案」を数通り作らせた。その後、グループで話し合いをさせた。その案にしたわけを話し合ったり意見を交換したりして、お米を使った料理に対する互いの考えを理解し合うことができた。収穫の喜びを実感できるものとして、いろいろな意見が出されたことにより、それぞれ考えを深め合うことができた。

見取りを生かした称賛や提案の工夫

3 ごはん料理の献立を紹介する。



拡大投影機を利用して、献立についての視覚化を図り、数名の児童に発表させた。素材のよさに気付いたり、他の食材との相性を考えた発言も見られた。子どもたちから称賛の拍手が送られ、子どもたちの思いが詰まった料理のアイデアについて称賛した。

4 次時の活動について知る。

IV 大切にしていきたい点と改善点

1 大切にしていきたい点

- 本時のめあてに至るまで、教師の思いで引っ張るのではなく、子どもの思いの変容を大切に展開している。
- 実際に精米器を用いて、玄米から白米への変化を見せたことは、子どもの「米を食べたい」という思いにつながっていた。
- 本時のねらいに迫る部分の教師と子どものやりとりの中で、教師が「どうしてそう思うの?」と切り返した。そのことにより、全体がねらいに迫る方向に進んでいった。
- 今回は、自分たちの栽培した米を調理には用いない（放射線量について不安がる保護者や子どもがまだいるので）ことについて子どもたちに了解を取って授業に臨んだ。このように、子どもたちの思いと教師の思いで合意を取りながら進めていくとよい。
- 細切れの単元構想ではなく、大きな単元として構想することは、子どもの学びに合っている。
- 学習指導要領における総合学習の目標は、福島県の子どもたちにとって必要な要素が盛り込まれたものとして見ることができる。

2 改善点

- 米料理を決めていく場面であったが、米料理を自己決定する際の検討基準を全体で共通理解させた上で行った方が、後で周りの友だちと同じ土台で話し合いができる。
- 料理を検討する際、学校管理下でどうしても留意しなければならない「学校で扱える調理か」という点や「栄養のバランス面」という点を教師から提示し、揺さぶることもほしかった。
- これまでの学びの足跡としての掲示物は、子どもの振り返りにも役立つので実施・活用していく。
- 単元の中にある大きな課題、中ぐらいの課題、本時レベルの具体的な課題とはなんであるのかや、課題のつながりを教師側でおさえて各授業に臨むようにする。
- 「探究の過程」の図は、単元にも単位時間にも存在するものである。その中でも「整理・分析」の「分析」する活動も重要視していくとよい。
- 単元の学習活動と評価計画をさらに具体的に作成すると、より具体的に単元が見えてくる。
- 子どもの評価方法として、少数の子どもを限定して見取って評価したり、観点を絞って子どもたちの姿を見取って評価したりすることもある。
- 子どもに記入させるワークシートは、子どもにとって書く必要感の生まれる物であったり教師が見取りたい項目であったりするものがよい。

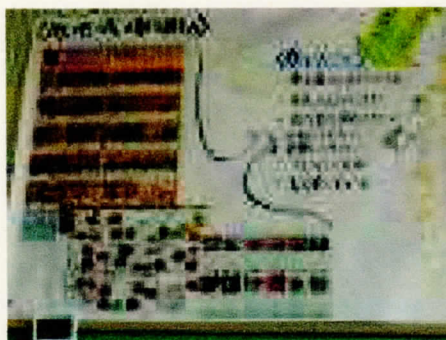
総合的な学習の時間

第6学年「ともに生きるために」

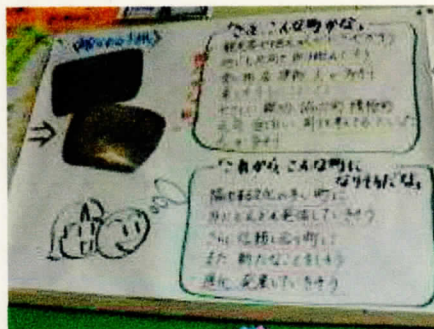
I 本時までの経緯

会津若松を盛り上げようと、会津若松の店舗同士が協力し合っていて取り組んでいる取り組みに、子どもたちはパンフレットを通して出会い、かかわっている方々の思いを想像し、実際の思いを確かめようと代表の方に手紙を送ってきた。返事には、子どもの想像以上の思いが綴られており、ますます会津若松の取り組みや思いのすばらしさを感じてきた。子どもの中に「相馬にも会津みたいな人いるかなあ」、「相馬にもいてほしいなあ」などといった思いが芽生え、相馬における協力し合っの取り組みやそれへの思いを探っていく素地ができつつあった。

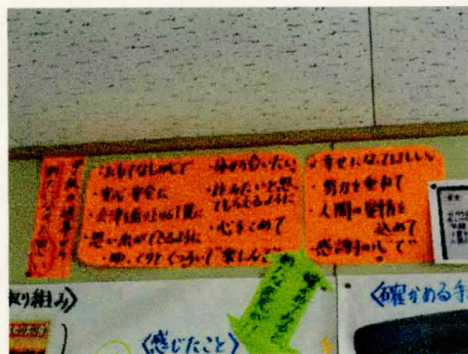
- ① 会津のパンフレットに触れ、
会津の取り組みや思いを想像する



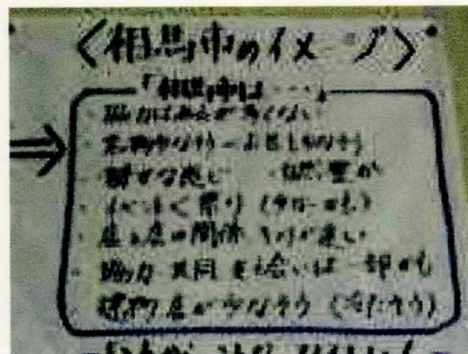
- ② 会津と手紙のやりとりをし、
自分たちの感じ取ったことを
確かめる



- ③ 返事から、さらに会津への
思いを広げ、このような町に
したいという思いをもたせる





- ④ さて、我が町相馬はどうか考え
る



II 本時のねらい

会津若松からの手紙の返事を基に相馬市の取り組みに思いをめぐらせ、相馬での取り組みを取材していく相手を、自分なりの理由を考えて決めることができる。

Ⅲ 本時（10／50時間）

学習活動・内容	手立てに関する実際
<p>1 いただいた手紙の返事に対する感想を基に、相馬の取り組みについて思いを巡らす。</p>	<div data-bbox="639 450 1344 488" style="border: 1px solid black; text-align: center; padding: 2px;">見取りを生かした授業展開の工夫</div> <div data-bbox="719 539 1265 952" style="text-align: center;">  </div> <p>前時の子どもの感想にあった、会津の人々や町に対する憧れや相馬にも同様の取り組みや思いがあってほしいとする思いを紹介するところから授業が始まった。数名を紹介し終わった頃には、相馬にも会津のような取り組みや人がいてほしいとする思いが高まってきた。</p>
<p>2 相馬の取り組みに関する資料に触れ、これからの活動の糸口になる取材対象を決める。</p> <p>(1) 資料から気付いたことについて話し合う。</p>	<div data-bbox="639 1200 1344 1238" style="border: 1px solid black; text-align: center; padding: 2px;">解決に向けて動き出したくなる教材提示の工夫</div> <div data-bbox="719 1296 1265 1709" style="text-align: center;">  </div> <p>子どもたちは、相馬にも店舗や協会、組合などが協力し合って取り組んでいることやパンフレットがあることをまだ知らないでいた。そこへ、教師から封筒に入った様々な相馬のパンフレットや東北六魂祭での写真（相馬のブースの様子）を各班に提示した。相馬にも協力し合った取り組みがあったことへの意外さや、知っている店舗や商品があることへの驚き、これまでの総合学習で出会ってきた人もその中に写って</p>

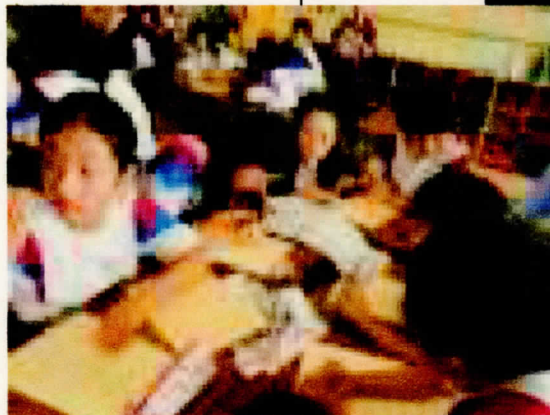
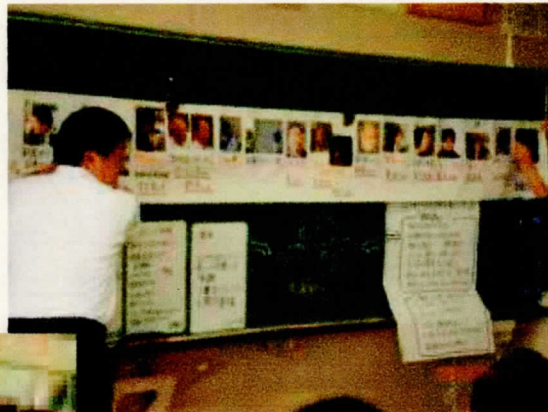
いることへの喜びをつぶやいていた。

「これらをヒントに、相馬の協力し合っでの取り組みを探れるかもしれない」と、感じていた子どももいた。

自己決定場面のある授業展開の工夫

(2) これまで出会ってきた人々を基にして、相馬の取り組みについて取材する対象を決める。

相馬の取り組みについて取材したい人を決めよう。



5年生の時に会ってきたゲストの方々を振り返らせ、パンフレットや写真以外にも協力し合っでの取り組みをしている人や、そうした取り組みを知っている人がいるのではないかと、視野を広げることができるようにした。

その後、子どもたちは、班の中で相談しアドバイスを交わしながらも、自分がぜひ取材してみたい人を理由付き

で自己決定していったのであった。

(取材対象を自己決定するこの時、子どもたちの目の前には、相馬のパンフレットや東北六魂祭の写真、5年生で会ってきた方々の顔写真があり、子どもたちの心や頭の中には、出会ってかかわった時の人柄の印象や話の内容、提示して下さった資料の記憶などがあり、それらが判断材料となっていた)

3 次時の活動について知り、意欲を高める。

IV 大切にしていきたい点と改善点

1 大切にしていきたい点

- 今回のパンフレットのように、子どもが自己決定する際の判断材料が目の前にあるのは重要である。個々に着目する箇所が異なるので、手に取って探ることができるのがよい。
- 自分が取材したい人を決める今回のような場合、判断材料を増やしたり友だちの

着目点のよさに気付いたりするのに、班での話し合いは有効であった。

- これまでの学びの見取りが、本時の称賛につながっていたので、多くの子どもにかかわって見取っていくことが大切である。
- 手立てにはないが、本時のねらいにかかわる部分での教師の切り返しの発問や展開の判断は重要である。

2 改善点

- 資料の見せ方や配付する種類にも注意を払っていきたい。
- 次の授業や次の単元につながる、継続的な子どもの活動記録の累積をしていきたい。
- 放射線教育について相馬市は、学級活動（2）で2時間設定しているが、生活科や総合の学習の中で、意図的に放射線に関して触れて追求させることも考えていきたい。